

「英会話なんて二度とやらないと誓った人に朗報。」
～コロナ禍で留学エージェントがはじめて作ったオンラインの語学学校～

ミッション・コマンド・ジャパン代表/ミッション・コマンド・イングリッシュ校長
田中慎一

10年前の私は、ごく普通の英会話スクールに通っているいち英語学習者に過ぎなかった。

通学から2年が経ったころ、「全然話せてないじゃないか！」という焦りを感じるように。。英会話スクール仲間のフェードアウトも目立ち始めたある日、「ネイティブとただ楽しく話すだけのレッスンじゃダメだ。」と3か月の留学を決意した。

留学先では、毎日8時間ものレッスンが待っていて、「卒業する頃には、今度こそペラペラになれる！」そんな期待をしていたのを覚えている。

それから2か月が経ったある日、期待は遠い道のりであることに徐々に気づき始めた。周りを見渡すと自分より長いこと留学している人たちですら伸び悩んでいた。「やっぱり長期間、何年も腰を据えて続けないとダメなのか・・・」そう思った。

でも、僕は非常に諦めの悪い人間なので、

「それなら、どういうメソッドだったら短期間でも英語力をあげられるの?」、その後は留学エージェントとして7年間、100以上の語学教育機関を訪問し、1000人以上の留学生にインタビューしまくった。

そこから自分なりに導き出した答えを、業界の反発を恐れずに正直にいうと「留学さえすれば英語が出来るようになる」という事は絶対でない。

なぜなら「勉強する事」と「実際に話せるようになる」というのは全く別のスキルだからだ。

例えば、自動車学校で交通ルールを勉強しただけの人が、いきなり公道で車を運転できるだろうか？ バスケットのルールを理解し、ちょっとフリーシュートの練習をしただけの人が、いきなり試合に出て勝てるだろうか？ どちらの答えも「NO」だとすぐに理解できる。

「ルールを勉強(①)したら、実技訓練(②)を何度もこなし、その上で実践(③)に臨む」というのがセオリーであることは誰も知っている。

でもなぜか英語学習に至っては、実技(②)をすっ飛ばしていきなり実践本番③に行こうとする人が多く、挫折シナリオが見えている。その結果、「次はコレを試してみよう！」と教材・英会話スクール・留学というように一生負のスパイラルにはまり続ける。

ところで、留学エージェントとして現地学校を視察をしていると、「実践の重要性」を説く学校は多いが、「実践を想定したプログラム」を提供するところはなぜか殆どない。

既存の教科書を使い、ただ講師を用意するだけの学校ばかりだ。本番に強くなるための正しい成長プロセスを知らない留学生は、愚直に座学だけを頑張るようになるものの、それだけで上達すると思ひ込んでるから、教室の外で英語を使おうとする人は実は少ない。これが典型的なザ・ニホンジン留学生である。

そのため、私は語学学校に対して、実践プログラムの導入提案をしてきたが、幾度となく見送られた。そんなことでは、留学先であっても大量のインプットと少量のアウトプットしか行われないため、結果は残らないが、「やっぱり長期間、腰を据えてやらないとね！」という当たり前の言葉だけが残るようになる。

繰り返しになるが、僕は非常に諦めの悪い人間なので、「短期間でもちゃんと実践で使える力が身に付くプログラムを作りたい！」その一心だけは持ち続けていた。

そして2020年、コロナ禍で海外の語学教育機関が次々と閉鎖する中、自らがオンラインで学校を作ることになった。「短期間でも話したいことを話せるようになれる」実技訓練を中心に据えた業界オキテ破りの新しい英語教育が誕生する。

既に多くの人にメソッドの効果を実証済みで、長期間日本を離れて勉強することが出来ない人、これまで中々成果が出せなかった人にこそ体感してほしいプログラムに仕上がった。

公式HP：<https://spartaenglish.jp/>

取材・問い合わせ：info@mission-command-english.com

電話：092-688-4436